

令和6年度 事業計画書

自 令和6年4月 1日

至 令和7年3月31日

誓 願

人よ醒めよ醒めて愛に帰れ
愛なき人生は暗黒なり

共に祈りつつ

すべての人と親しめ

わが住む郷に

一人の争う者もなきまでに

人よ起てよ起ちて汗に帰れ

汗なき社会は墮落なり

共に誇りつつ

すべての人と働け

わが住む里に

一人の怠る者もなきまでに

SYD 活動と SDG s

SYD 活動のほとんどが SDG s の目標達成に通ずる

🌱 幸せの種まき 献金/フィリピン支援・海外支援/震災ボランティア



🌱 自然体験キャンプ/家庭共育セミナー/各種講習会



十伊勢講習会

11 住み続けられるまちづくりを



十沖縄縄遺骨収集

16 平和と公正をすべての人に



令和6年度 基本方針

創立120周年を見据え さらなる飛躍のために進めよう“幸せの種まき運動”

蓮沼門三を中心とした学生たちによって明治39年2月11日に創立された修養団は、令和8年2月には120周年を迎えます。明治、大正、昭和、平成、令和と5つの時代の大きな変遷の中でも修養団は変わることなく「総親和・総努力・総幸福」の明るい世界の実現を願い、会員と共に力を合わせ“愛汗運動”そして“幸せの種まき運動”を展開して参りました。

昨年度は4年間流行したコロナウイルス感染症の法令上の位置付けが2類から5類に移行された中、引き続き感染対策を講じながら各事業をほぼ予定通りに実施することができました。令和6年度は昨年度に引き続き、さらなる飛躍のために役職員一丸となって努力してまいります。

人生100年時代を迎え、女性の働き方、男性の家事・育児参画による就業の意識や単独世代、ひとり親世帯の増加など家族の姿の変化、離職後の過ごし方や人生の多様化による社会の変革が見られるようになりました。

それら諸課題を念頭に、国際的に推進されている持続可能でより良い世界を目指すSDGsが掲げる目標達成にも寄り添いつつ、全国の会員および連合会・クラブと連携し、学校や諸団体・機関の協力を得ながら来る創立120周年を見据えて、青少年の健全育成事業、家庭教育活動、講習・講演活動をさらに飛躍させるために“幸せの種まき運動”の充実を図り事業を推進してまいります。

I. 青少年活動

※子どもゆめ基金は申請中です。

日本の将来を担い未来を築く青少年が、健康な身体を養い豊かな感性と高い徳性を磨き、有為な青年に成長することを目的に、基本理念である“愛と汗の精神”に基づいた本団の活動と一致するSDGsの取組みに添って、自然体験・社会奉仕体験を中心とした青少年健全育成活動の充実を図る。愛と汗の実践活動として、フィリピン・ゴミ山などの貧困の中で暮らす子どもたちへの支援活動や被災者に対する支援活動を継続して展開する。

1. 子ども自然体験活動

“愛と汗の精神”に基づいた子ども自然体験キャンプを全国的に開催し、大自然の中で障がい児を含む異年齢の仲間とともに野営による共同生活を通して、様々な課題や困難を乗り越え、自主性、協調性、感受性等を育てるなど、次代を担う青少年の心豊かな人間形成を図る。

なお、活動実施に際してはウィズコロナの時代に対応しつつも感染症対策に配慮して行う。

(1) 夏期子ども自然体験キャンプ

ア. 「子ども自然体験キャンプ」《文部科学省後援・子どもゆめ基金助成活動》

期 日	8月～9月 <各2泊3日～3泊4日>
開催数	5会場（道南・桧原湖畔・瀬戸内海・鹿児島・沖縄） *道南、沖縄は各3～5名、桧原湖畔は5～10名の障がい児を募集（招待）
スタッフ等	各会場スタッフ5～20名、リーダー15～25名
対 象	小学1年生～中学3年生の児童・生徒
募集人員	各30～60名

イ. 連合会等組織共催「子ども自然体験キャンプ」

期 日	7月下旬～8月 <各3泊4日>
開催数	4会場（いばらき、友愛、広島、北部九州）
スタッフ等	各会場スタッフ8～10名、リーダー15～25名
対 象	小学1年生～中学3年生の児童・生徒
募集人員	各30～60名

ウ. キャンプ事前調査《子どもゆめ基金助成活動》

期 日	6～7月 <各1泊2日～2泊3日>
開催数	5会場
派遣講師	各1～2名

エ. 印刷物の作成

① 「子ども自然体験キャンプ」リーフレットの作成《子どもゆめ基金助成活動》

部 数	18,000部
体 裁	A4版6頁、4色刷り

② 「子ども自然体験キャンプ」報告書の作成

部 数	1,000部
体 裁	A4版、84頁

(2) 子どもわくわく自然体験キャンプ《文部科学省後援・子どもゆめ基金助成活動》

経済的に厳しい状況や様々な困難により体験活動に接する機会が少ない子どもたちを招待し、大自然の中で異年齢の仲間とともに野営による共同生活を行う。様々な課題や困難を乗り越え、自主性、協調性、感受性等を育むなど、次代を担う青少年の心豊かな人間形成を図る。

期 日 9月14日(土)～16日(月・祝) <2泊3日>
会 場 ばんだいふれあいぴあ(福島県)
スタッフ等 スタッフ8名、リーダー20名
対 象 小学1年生～中学3年生の児童・生徒
募集人数 40名

(3) 冬期子ども自然体験キャンプ

ア. 子ども自然体験スキーキャンプ

開催数 2回 <各4泊5日> ①12月26日(木)～30日(月)
②令和7年3月26日(水)～30日(日)
会 場 ばんだいふれあいぴあ、裏磐梯スキー場・猫魔スキー場等(福島県)
スタッフ等 各回スキー指導員2名、炊事員2名、SYD職員3名、
リーダー18名
対 象 小学1年生～中学3年生の児童・生徒
募集人員 各40名

イ. 報告書の作成

部 数 200部
体 裁 A4版、36頁、カラー

(4) 子ども週末体験活動

週末や連休などを利用して子どもたちが集い、交流・体験活動を行う。子どもたちの自主性や協調性、コミュニケーション能力などを培い、チームやグループでの活動を通じて達成感やお互いの信頼を深めるなど心豊かな人間性を育むことを目的に開催。

リーダー研修会では、自然体験活動や社会奉仕体験活動を実践している高校生・大学生等の青年が集い、体験活動やその展開方法について講演、協議で知識や技術を習得したり、実際の活動を通して、自主性・協調性や相互のチームワークの構築を図る。

ア. WAKU×2ボランティアリーダー研修会

開催数 全国19会場(内、キャンプ11会場・ひろば8会場)
期 間 通年 <各1日～2泊3日>

イ. 子どもWAKU×2ひろば

開催数 全国15会場(内、5会場が《子どもゆめ基金助成活動》)
期 間 通年 <各1日～2泊3日>

(5) 夏期少年少女合宿講習会（青年会議所等との伊勢青少年研修センター共催事業）

開催数 3回（7～8月）＜各2泊3日＞
会場 伊勢青少年研修センター（三重県）
対象 小学生
定員 各60～100名
共催団体 （一社）伊勢青年会議所、（公社）岸和田青年会議所、教育再生いばらき

(6) 自然体験交流合宿（伊勢青少年研修センター主催事業）

開催数 2回（8月）＜各3泊4日＞
会場 伊勢青少年研修センター（三重県）、千葉県下
対象 小学2年～6年生
定員 各50～80名

(7) 週末体験（伊勢青少年研修センター主催事業）

ア. 青年リーダー育成

開催数 2回（5月、11月）＜各1泊2日＞
会場 伊勢青少年研修センター
対象 高校生以上のリーダー
定員 各20名

イ. クリスマス会

開催日 12月＜1泊2日＞
会場 伊勢青少年研修センター
対象 小・中学生
定員 50名

2. 子どもボランティア推進活動

“愛と汗の精神”に根ざした様々なボランティア活動を実践することにより、人のため、社会のために行動することの素晴らしさや真の喜びを体感する。お互いに理解し合い、分かち合い、思いやる心や豊かな感性を磨き心豊かな人間形成に寄与する。

(1) 幸せの種まきキャンペーン《文部科学省後援》

地域、学校（生徒会・ボランティア部）、PTA等と連携を図り、これまで実践しているフィリピン等での支援活動を紹介する。ストリートチルドレンやスカベンジャーなど「貧困と共に生きる子どもたち」の現状を理解することにより、ボランティア精神を涵養し、他者への思いやり、命の大切さ、親や周りの人への感謝など、青少年の豊かな心を育むことを目的として全国的に開催する。

ア. 幸せの種まきキャンペーン「出前講座・課外授業」

期 日 通年
開催数 全国30会場（オンライン含む）
実施組織 学校（生徒会、ボランティア部・JRC等のクラブ、学童保育等）、市町村教育委員会・公民館、PTA・子ども会など各種団体・グループ、SYD連合会等組織
派遣講師 各2～3名（SYD講師及びフィリピンでのボランティア経験者）
実施概要 ・参加者 各会場15名以上
・プログラム 90分（標準）ほか

イ. パンフレットの作成・配布

部 数 5,000部
体 裁 A4版、8頁、4色刷り
配布先 5,000カ所

(2) 青年ボランティアゼミナール《子どもゆめ基金助成活動》

開催数 4回 <各2時間>
講師 各1名(国内外のボランティア経験者等に委嘱)
会場 オンライン(Zoom)、SYD会議室(オンラインを含む)
対象 全国の青年リーダー
募集人員 各25名程

3. SYD指導者の養成

自然体験や社会奉仕体験などのさまざまな体験活動を実践し、自ら活動の楽しみや喜びを体得するとともに、子どもたちを安全に導きながら体験活動を積極的に推進するための知識や技能を習得し、“愛と汗の精神”を日常的に実践するSYD指導者の養成に努める。

(1) 全国青年アカデミーキャンプ in 福島《文部科学省後援/子どもゆめ基金助成活動》

全国から集った中高大学生等の青少年が異年齢の仲間とともに大自然の中でキャンプ(共同生活)を実施。自然の素晴らしさや厳しさを感じながら、自然体験活動を積極的に推進するための知識や技能を習得するとともに、国連が定めるSDGs(持続可能な開発目標)に添った学びの場やテーマについての協議を行う中で、他者を思いやる心や積極的に汗を流せる自主性、コミュニケーション能力などを育み、次代を担う青少年の心豊かな人間形成を図る。

開催数 7月30日(火)～8月3日(土)<4泊5日>
会場 ばんだいふれあいびあ等(福島県)
スタッフ等 外部講師3名、SYDスタッフ5名
対象 全国の中学生・高校生・大学生等の青年
募集人員 25名

(2) 全国青年ボランティアの旅 in 東北【新規】

《文部科学省後援/子どもゆめ基金助成活動》

全国から集った中高大学生等の青年が異年齢の仲間とともに共同生活を伴うボランティア活動を実施。ボランティア活動を積極的に推進するための幅広い分野の知識や技能を習得したり、社会福祉施設や被災地で実際に交流支援を行う。また参加者同士がグループにわかれて協議し、見識を深めるとともに、他者を思いやる心や積極的に汗を流せる自主性、コミュニケーション能力などの次代を担う青少年の心豊かな人間形成を図る。

期 日 令和7年3月31日(日)～4月4日(木)<4泊5日>
開催地 ばんだいふれあいびあ、社会福祉施設、被災地等(福島県、宮城県)
スタッフ等 外部講師3名、SYDスタッフ5名
対象 全国の中学生・高校生・大学生等の青年
募集人員 25名

(3) ボランティア・アクション

自然体験・福祉ボランティア活動の心構えや基本的技術を習得し、福祉施設や公共施設等での社会奉仕活動を実践し、社会奉仕体験活動の楽しみや喜びを体得するとともに、ボランティア精神を涵養し、地域で活躍する指導者としての資質の向上を図る。

期 日 6月～令和7年2月 <各1泊2日>
開 催 地 6会場（道南・美幌・福島・広島・鹿児島・沖縄）
スタッフ等 外部講師各1名、SYDスタッフ各2名
対 象 地域（全国）の中学生・高校生・大学生等の青年等
募集人員 各15名

*報告書の作成

上記3事業等の報告書を作成し、事業の成果を広く一般に広報する。

部 数 400部
体 裁 A4版、100頁

(4) SYD指導者資格認定制度

“愛と汗の精神”を理解し、自然体験活動や社会奉仕体験活動等を日常的に展開する指導者の養成を目的としたSYD指導者資格認定制度の運用と充実を図る。

4. 青年組織育成

“愛と汗の精神”に基づいた、自然体験・社会奉仕体験を年間を通して実践する青年部組織の育成・充実に努める。

(1) 青少年活動（キャンプ）担当者会議〈オンライン〉の開催

期 日 4月21日（日）<3時間>
会 場 オンライン（Zoomにて）
スタッフ 5名
参 加 者 15名

(2) SYD講師の派遣と青年組織活動への助成

青年部組織の強化・拡大と活動の充実・活性化を図るため、SYD講師の派遣と組織と組織活動への助成を行う。

ア. SYD講師の派遣

回 数 5～6回
期 間 各1日～3泊4日

イ. 青年組織活動への助成

自然体験や週末体験、社会奉仕体験を実施する青年組織に対して、活動規模や内容によって助成をする。

5. 関係機関・団体との協力

青少年教育及び社会教育の関係機関及び諸団体との連携を図り協力し合い、青少年の健全育成ならびに社会教育に寄与する活動を展開する。

Ⅱ. 国際交流

1. フィリピンとの交流事業

(1) 青年ボランティア・アクション in フィリピン (第21回)《文部科学省後援》

フィリピンケソン市パヤタスのゴミ山で働く子どもたち(スカベンジャー)やマニラ市のストリートチルドレン(路上で生活する子どもたち)を訪問し、ボランティア活動・交流活動・支援活動の実践をとおして友好と相互理解を促進する。このことにより、SDGsの目標である「貧困」や「飢餓」などについて深く学び、他者への思いやりや命の尊さ、またより良い社会のために行動する精神を培うなど、自ら生きる意味を模索し、国際協力の精神を涵養し、学校や地域で活動する青少年指導者を育成する。

期 日 8月20日(火)～26日(月) <6泊7日>

訪問地 マニラ市、ケソン市等

スタッフ 2名

参加者 青少年20名(満15歳から25歳未満の青少年)

支援者3名(満25歳以上の支援者及び今後支援をしようとする人)

主な活動 マニラ市内のストリートチルドレンやパヤタスのスカベンジャー(ゴミ捨て場で働く子どもたち)とのふれあい活動や支援品や食事の提供などのボランティア活動等を行う。

(2) フィリピン支援者訪問ボランティア(学資支援開始20周年記念)【新規】

期 日 10月11日(金)～14日(月・祝) <3泊4日>

訪問地 マニラ市、ケソン市等

スタッフ 2名

参加者 15名(満15歳以上の支援者及び今後支援をしようとする人)

主な活動 マニラ市内のストリートチルドレンやパヤタスのスカベンジャー(ゴミ捨て場で働く子どもたち)とのふれあい活動等を行う

2. ブラジルとの指導者交流事業

(1) 指導者の招聘

ブラジル修養団の推薦する指導者及び青年リーダーを招聘し、伊勢講習会や子ども自然体験キャンプなどの参加・研修により、ブラジルで開催される少年少女講習会等で活躍する青少年指導者の養成を図る。

ア. 青年指導者の養成

期 日 7月中旬～8月上旬 <約27日間>

招聘者 青年リーダー2名(ブラジル修養団推薦者)

イ. 講師の養成

期 日 令和7年2月上旬～2月下旬 <約21日間>

招聘者 1名(ブラジル修養団推薦者)

(2) 講師の派遣

ブラジル修養団の要請に応じて指導者を派遣し、日伯文化協会等と連携しながら開催される少年少女講習会や教育講演会及びブラジル修養団青年指導者研修会等に従事する。

期 日 令和7年1～2月 <約35日間>
派遣者 SYD講師1名

3. 関係機関・団体主催事業への派遣・受入協力

内閣府、国立青少年教育振興機構等が実施する青少年や指導者を対象とした国際交流派遣事業に積極的に参加者の推薦を行うとともに、国内における各種国際交流活動への指導者・青少年の参加を促進する。

Ⅲ. 講習会・講演活動

企業・団体の社員等または個人を対象に、“愛と汗”の精神を基本にした健全な価値観を形成し、より良い人格を研くことを目的に開催する。また、受託講習会・セミナーや講演会に講師を派遣し、“愛と汗”の精神の普及に努める。

なお、新型コロナウイルス感染防止へ最大限に配慮し、安全対策に万全を期して実施する。

1. 伊勢講習会

(1) みがく講習会

期 日 4月～令和7年3月 <各3泊4日>
開催数 7回(4月、12月、令和7年1月各1回、2月、3月各2回)
定 員 各60名

(2) みがく特別講習会

期 日 令和7年2月～3月 <各1泊2日>
開催数 4回
定 員 各100名

(3) 特別講習会

ア. 神嘗祭特別講習会

期 日 10月15日(火)～17日(木) <2泊3日>
定 員 100名

(4) 受託講習会

ア. 2泊3日コース

開催数 1回(11月)
定 員 80名

イ. 1泊2日コース

開催数 10回(通年)
定 員 各30～80名

(5) 講演活動

一般企業・その他各種団体の依頼により講師を派遣する。

2. 関東・東北地区等講習会

(1) 新入社員セミナー

ビジネスマナーや挨拶訓練等を通して学生から社会人への意識変革を図るとともに、講話や体験学習により“愛と汗”の人づくりを目的として開催する。

期 日 4月中旬 <2泊3日>
会 場 福島県下
定 員 30名

(2) リフレッシュセミナー

中堅社員等を対象として、ブラインドウォークや水行等の体験を通し、新たな「気付き」をうながすことで心身をリフレッシュさせ、日々の生活に一層の活力を生むことを目的として開催する。

期 日 令和7年2月上旬 <2泊3日>
会 場 福島県下
対 象 18歳以上
定 員 30名

3. 受託セミナー

多様な企業・団体等の人材育成の要望に応える修養団ならではのセミナーを企画・実施し、広く“愛と汗”の精神の普及に努める。

実施予定回数：20回

(1) ブラインド・ウォークセミナー

“思いやりの心”“信じ合う心”“感謝の心”の三つの心を体感し、より温もりのある心豊かな人間関係を築くことを目的としたセミナー。

コース：半日、1日

(2) パート社員セミナー

スーパーマーケット等のパートタイム社員を対象に、職場の人間関係をより円滑にする心のあり方や対人関係スキルの向上を目的としたセミナー。

コース：1日、1泊2日

(3) 新入社員セミナー

学生から社会人への意識変革を図るとともに、“愛と汗”の人づくりをねらいとしたセミナー。

コース：半日、1日、1泊2日、2泊3日

(4) 一般社員セミナー

1社単独による研修や職場リーダーの育成を目的としたセミナー。

コース：1日、1泊2日

4. 青少年・社会教育団体等への講師派遣・幹旋

委嘱講師の充実を図り、青少年団体をはじめ学校、諸団体、企業に積極的に働きかけ、講習会・家庭教育講座や人生講座への講師派遣や、レクリエーション、キャンプ等のプログラムを企画立案し、指導者派遣の一層の拡大を図る。

IV. 家庭教育活動

1. 家庭《共育》ひろば

さまざまな家庭のあり方、幸せのあり方がある時代においても修養団の「愛と汗」の理念」及び「共に育つ」という考えは、家庭教育においていつの時代も変わらないものといえる。これを土台とし、“楽しい子育て”“幸せな家庭づくり”を目的に、子どもたちに心豊かに育て欲しいという保護者、育児への悩みを抱える保護者、それらを支える地域の大人に対し、講演会やセミナー、交流会などの形式で、子育てや家庭教育について考える機会を提供する。

有識者・専門家による講演・ワークショップを通じて、家庭における「思いやりの心」「共に育つよろこび」の醸成を図る。

(1) 家庭《共育》ひろば（会場使用型）

開催数	3会場
期間	通年
参加者	各20～50名
講師	各1～2名

(2) Zoomでオンライン家庭《共育》ひろば

開催数	2回
期間	通年
定員	各50名
講師	各1名（外部講師）

V. 会員組織活動

1. 「幸せの種まき運動」の推進

会員および会員組織と連携を図り、さらに諸団体に呼びかけて、“愛と汗”を基本理念に下記事業を展開し、「幸せの種まき運動」を推進するとともに、SDGsのゴールとして掲げられている「平和と公正」などへの貢献を目指す。

(1) “愛と汗” 幸せの種まきセミナー

「すべての人の幸せと、平和で豊かな社会の実現」を目指し、“愛と汗”を基本とした修養団の理念を学び、幸せの種まき運動を実践し広げることを目的に実施する。修養団連合会・クラブを基本の実施団体とし、研修会方式を用いて各地で開催するとともに、組織の要請によりボランティア活動なども取り入れる。また、会員組織の活性化や後継者育成、会員拡大を図る。

開催数	3会場（標準日程は10時～17時）
参加者	各30名程度
講師	各2名（外部講師、SYD講師）

(2) Zoomでオンライン“愛と汗” 幸せの種まき講演会

Zoomを活用したオンライン講座、または講演会を実施し、実施が困難な組織や新規参加者を募ることで、地域における組織活動の再活性化と運動推進を促す。本団講師のほか、本年度は修養団の会員を講師として招聘し、活動者目線からの講話を取

り入れることにより修養団運動の活性化の機会とする。

開催数 5回（本部講師3回、活動者2回）
期間 通年
定員 各50名
講師 各1名

(3) 第16回「チャリティー演芸会」 —ストリートチルドレン支援—

開催日 6月
演者 立川らく次ほか
会場 SYDホール

(4) 「チャリティーバザー（幸せの種まき祭り）」

—ストリートチルドレン・災害被災者支援—

開催日 11月
会場 SYDホール、1階広場など

(5) 第8回「東京ベルズ」チャリティーコンサート—ストリートチルドレン支援—

開催日 12月
会場 SYDホール

2. 会員組織活動への支援と会員加入促進

会員組織がそれぞれの地域や職域で社会貢献活動(幸せの種まき)をすすめるために、運動推進会議を開催するほか講師派遣などの支援を行い、会員加入促進を図る。

(1) 第13回「全国修養団運動推進会議」

各クラブ・連合会の活動を活性化する上で、事業や日常活動の具体的展開について協議するとともに、各会員組織間の情報交換等を行う。修養団創立の原点に立ち返り更なる活動を推進する機会とする。

開催日 令和7年2月8日（土）～9日（日）
会場 SYDホール
参加者 主なクラブ・連合会の代表者またはそれに準ずる人 35名

(2) 活動活性化のための講師派遣

各クラブ・連合会が実施する事業（総会等含む）に対し、要望に応じて講師を派遣する。

各組織を定期的に訪問し小規模の研修会や講演会を行う。さらには電話やメールなどで連絡を取りながら組織の現状分析と諸問題解決を共に進め、活動の活性化を図る。

派遣回数 20回程度（随時）

(3) 活動助成金の支出

各クラブ・連合会が行う活動に助成金を交付し、組織活動の拡充と活性化を図る。

(4) 会員加入促進活動

ア. 本団主催セミナーおよび受託セミナー、キャンプ等の主催事業実施・開催に合わせ受講者に見本誌やチラシを配布し、加入促進を図る。

- イ. 各連合会・クラブを通じ、未会員および家庭《共育》ひろば、“愛と汗” 幸せの種まきセミナー等の事業参加者に対して加入促進を図る。

(5) 『SYDかわらばん<最新活動情報>』の発行・配布

毎月20日（8月を除く）に各800～900部発行し、会員組織等に配布する。ホームページでも過去1年分の全記事を掲載して広報する。

VI. 幸せの種まき献金活動

1年をとおして募金活動を行い、フィリピンをはじめとする海外の経済的に恵まれない子どもたちや国内外の大災害の被災者、福祉施設等を支援し、「貧困」「飢餓」など、喫緊の諸問題解決を目指した諸活動を推進する。

1. 募金活動

会員や諸事業参加者のみならず、機関誌やホームページによる広報活動で広く募金を呼びかけ、積極的に募金活動を展開する。また、活動報告書やフィリピンの学資支援を受けている子どもたちを紹介するパンフレットを作成配布し、この活動への理解者・協力者を広げる。

2. 支援活動

フィリピンの経済的に恵まれない子どもたちへの学資支援をはじめとする支援活動を継続して行うとともに、国内外の大災害被災者や福祉施設への支援も行う。支援先や支援方法については、「幸せの種まき献金」委員会で定期的に検討する。

VII. 出版・広報活動

1. 機関誌『向上』『愛』の発行

(1) 『向上』

自分を高めること、身近なところから“幸せの種”をまくことの大切さを実感し、行動に移すために役立つ記事を掲載する。各界著名人の随想、専門家による「より良く生きる」ことへのヒントや学びとなる内容のほか、修養団や会員組織による事業・活動を紹介し、広く興味を持ってもらえる誌面とする。

(2) 『愛』

温かな人間関係づくり、子育てや暮らし、心豊かに生きるための参考となる記事のほか、青少年の自然体験活動やボランティア活動等をわかりやすく紹介して、特に子育て世帯や青少年に役立つ内容とする。

(3) 機関誌の積極的活用と広報

読者の高齢化等による発行部数の減少が予想される中、講習会受講者のみならず、「日々の力」および図書購入者、「幸せの種まき献金」支援者など、修養団活動に対して理解をいただいている方々に対し機関誌（バックナンバー）を送付し、購読への呼びかけを進める。

合わせて、内容などが理解しやすいチラシを作成する。

2. 令和7年版「日々の力」の制作・販売

販売目標 11,000部（制作11,500部）

3. 教育図書 の普及、教材 の販売

『蓮沼門三の言葉 110』、『人生のことば 365日』などの人生書や教育図書、研修教材等の販売に努める。

VIII. 施設運営事業

1. 伊勢青少年研修センター

- ・みがく講習会、みがく特別講習会を事業の中心として運営する。
- ・他団体との共催による講習会、研修会事業を進め、新規の講習会の企画運営を図る。
- ・館内の安全対策（老朽化にとまなう）をすすめる。

2. 修養団SYDビル・SYDホール

- ・テナントに対し、快適なオフィス環境を提供するよう適性管理に努める。
- ・セミナー、講演会や各種活動の拠点として一層の有効活用を図る。
- ・2階ホール及び16階会議室の利用を促進する。

3. ばんだいふれあいぴあ

- ・自然体験活動の拠点として、主催事業で利用するとともに諸団体の利用に供し、有効活用を努める。
- ・施設の整備を行い、利用環境の一層の向上を図る。

4. 関西会館

- ・賃貸スペースの適正管理に努める。

IX. 表彰等

1. 第19回SYDボランティア奨励賞

都道府県教育委員会、主要市町村教育委員会、キャンプ開催地や参加者のいる小・中学校、高校、大学を中心にSYDボランティア奨励賞・パンフレットを配布、応募を呼びかける。顕著な活動を顕彰することにより、ボランティア活動に対する意識を高揚し、活動への参加を促して青少年の健全育成に寄与する。

(1) SYDボランティア奨励賞贈呈式

贈呈式 令和7年2月8日（土）
会 場 SYDホール

(2) 募集パンフレットの製作・配布

体 裁 A4版、2頁、4色刷
部 数 18,000部
配布先 18,000カ所

2. 令和6年度修養団功労者表彰

修養団運動の発展に寄与した功績顕著と認められる個人ならびに団体を顕彰する。

X. 諸会議の開催

1. 理事会

期 日 5月・12月・令和7年3月（年3回）
会 場 SYD会議室

2. 第14回評議員会

期 日 6月8日(土)

会 場 SYD会議室

3. 後援会役員会

期 日 7月

会 場 SYD会議室

XI. 創立120周年に向けて

3年後の令和8年(2026年)2月に創立120周年を迎えるにあたり、今年度より記念大会や記念事業等の検討を始めていく。